

メディアセンターによる企画展示

第35回 慶應義塾図書館貴重書展示会

へびをかぶったお姫さま ～奈良絵本・絵巻の中の異類・異形～

内容：室町時代後期から江戸時代中期にかけて制作された奈良絵本・絵巻を展示した。異類・異形が登場するさまざまな作品には、動物や鳥、虫たちが多く描かれ、本文中では会話を交わすなど、擬人化されて描かれている。本展示会のタイトルである頭にへびをかぶったお姫さまも、へびを擬人化したもので、女性絵本作家の居初（いそめ）つなによる作品と推測される。つなは今回の主役の一人であり、他にも多くの作品を展示した。展示会の前半で異類・異形の作品を並べ、後半で、これらの絵本・絵巻がいつどのように誰によって制作されたのかを明らかにした。

奈良絵本・絵巻は慶應義塾図書館が誇るコレクションの1つである。今回は個人蔵資料を含む48点を展示した。絵巻の他、『源氏物語』『伊勢物語』『徒然草』が揃い踏みした手のひらほどの特小の奈良絵本3点、『虫の歌合』6曲1双を含めた屏風4隻など、多様な内容となった。

本展示会の図録は大変好評で、図録や書籍購入者へお渡しした展示作品からデザインしたクリアファイルも喜ばれた。また、昨年までのコロナ禍では事前予約で人数を制限していたギャラリートークを、事前予約・制限のない形で2回実施し、多くの参加者を得た。（期間中の来場者は2,036名）

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善雄松堂株式会社

会期：2023年10月4日（水）～10日（火） 会場：丸善・丸の内本店4階ギャラリー

ギャラリートーク：10月6日（金）18時～、8日（日）14時～ 両日とも石川透（文学部教授）



ギャラリートーク（石川教授・展示監修者）



展示会場入口に展示された特小本



壁沿いに展示された4隻の屏風